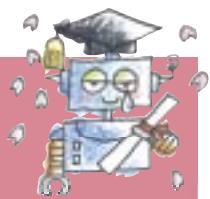




2007 SPRING

卒業・修了おめでとう。



VOS No.138

VOS

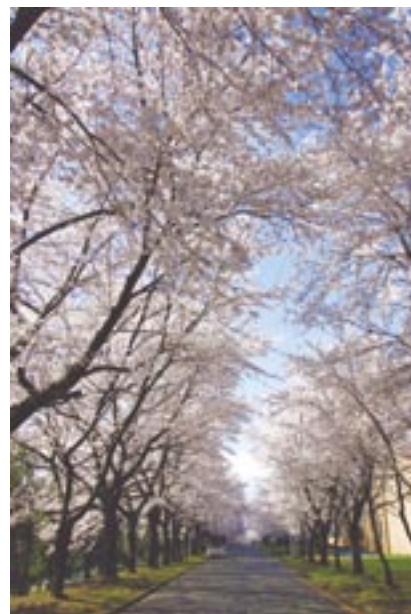
VITALITY
ORIGINALITY
AND SERVICES

長岡技術科学大学 広報

No.138

2007.March

特集 卒業・修了



祝 卒業・修了

新しいステージへ! 常に全力を!!



CONTENTS

- 2 学長告辞
- 4 卒業・修了を祝して
- 6 贈る言葉／卒業・修了にあたって
- 18 贈る言葉
- 19 退職にあたって
- 23 同窓会から
- 24 卒業・修了者数／編集後記

長岡技術科学大学 大学歌

中村千栄子 作詩
岩河 三郎 作曲

天と地の恵み豊かに 信濃川
 越の美を いまも 悠悠
 いふ友よ 若き瞳とありよ
 遙かばる源泉たどり
 漕ぎだせ 友よ
 果し知れぬ 英知の海へ
 大いなる 技術の海へ

紫の雲を 開きて 東山
 雪の朝に やがて 明明
 いふ友よ 若き生命と燃やせ
 新しい技術の炎も
 彩水 友よ
 日本の夜明けの空と
 健やかな 世界の空と

あめ われら
長岡技術科学大学

平成19年3月 卒業・修了予定者数

(平成19年3月26日 現在)

工学部	卒業者数	大学院工学研究科			
		修士課程	修了者数	博士後期課程	修了者数
機械創造工学課程	105	機械創造工学専攻	98		
		機械システム工学専攻	1		
電気電子情報工学課程	124	電気電子情報工学専攻	92	情報・制御工学専攻 (退学後1年以内修了者1名含む)	9
材料開発工学課程	51	材料開発工学専攻	45		
建設工学課程	41	建設工学専攻	23	材料工学専攻 (退学後1年以内修了者2名含む)	16
環境システム工学課程	51	環境システム工学専攻	42		
生物機能工学課程	56	生物機能工学専攻	32	エネルギー・環境工学専攻	12
経営情報システム工学課程	38	経営情報システム工学専攻	28		
計	466	計	361	計	37
				論文提出により学位を授与されたもの	3

編集後記

卒業生・修了生の皆さん、おめでとうございます。短い人で2年、長い人だと10年近くこの大学で過ごされた訳ですが、この大学で学んだことを糧に、VOSの精神を持って、実社会で活躍なさることを期待しております。私事ですが、本号を以て、VOS編集委員を卒業することになりました。何人かの方々には原稿の執筆で面倒をお掛けしましたが、皆様のご協力で何とか務めを果たすことができました。また、和気藹々とした雰囲気の中で、議事もスムーズに進行する楽しい専門部会には名残惜しい思いが一杯で。ありがとうございました。



VOS138号 (平成19年3月)
 編集発行／長岡技術科学大学広報委員会 (総務部 総務課)
 *本誌に対するご意見等は下記までお寄せください。
 〒940-2188 長岡市上富岡町1603-1
 Tel.0258-47-9209 Fax.0258-47-9000
 E-mail skoho@jcom.nagaokaut.ac.jp
 U R L : http://www.nagaokaut.ac.jp/

VOSの由来

本学のモットーである,Vitality,Originality,Servicesの頭文字をとって、本学初代学長の故川上正光氏により名付けられました。

2006年10月1日
開学30周年を迎えました。



学長告辞

私心なく生きる，
無私を貫く長岡技術科学大学長
小島 陽

卒業生・修了生の諸君，おめでとう。

本日，ここに，平成18年度の卒業式・修了式を迎え，学士，修士そして博士の学位を得た諸君に心からお祝い申し上げます。また，諸君をこれまで長年にわたり育て，支えてこられたご家族に御礼とともにお祝い申し上げます。

留学生の諸君。故国を遠く離れ，言語・文化の異なる地での生活，学習には大変な苦勞があったかと思えます。諸君の努力に敬意を表すとともに，さらに研鑽を積んで，それぞれの故国の発展に力を尽くし，また，日本との架け橋となってください。

この冬は近年になく小雪でした。小雪により，喜んだ人，悲しんだ人，また，利益を得られた人，得られなかった人など様々な人がいたかと思えます。異常気象，地球温暖化，地球環境問題にかかわる諸現象が取りざたされています。この世界的な異常気象は我々人間に何をもちたらし，どのような警鐘を鳴らしているのか誰にも分かりません。ただ我々は，自然界で起こるこの現象を個々に受け止め，科学の目で自分たちのやるべきことを考え，できることをできる範囲内でやっていく。このことが重要です。

さて，諸君は，これから，社会にでると，いろいろな予想もしない難局に出くわすことがたびたびあると思えます。社会人になると，職場では出向，配置換え

など，いろいろな場面に直面します。「塞翁が馬」人生の吉凶，運不運などは予測ができません。愚痴などこぼす前に全力で対処しましょう。何事も，まず，自分で考え，工夫し，実行してください。他人に言われるままでなく，自分自身の頭で考え，試行錯誤しながら，ものごとを解決してください。工夫するためには，日頃の鍛錬，素養が基本になります。「与えられた場所で常に全力を」このことを心がけてください。

一流の陶芸家になるには，若い時に，来る日も来る日も，飽くことなく，同じ茶碗を作り続けます。何事も修行です。そうやって修行を積み重ねていく間に，工夫することを学びます。自分で工夫する面白さを見つけるまでは，辛抱しなければなりません。これを超えて，はじめて，オリジナリティを発揮できるようになるのです。ただし，物事を成し遂げるには一人では到底できません。周りの助言や指導，協力があってこそ初めて達成することができます。また，一人ひとりの小さな力でもそれが集まれば，やがてそれが大きな力を生み，これまで成し得なかった課題を克服できる可能性が高くなります。協調性というものも社会には必要です。

最近，ライブドア事件や村上ファンド事件など，拝金主義とエゴにまみれた経営者の不祥事があとをたちません。厄介ごとを敬遠したり，自分の手を汚したくないくせに，目立ちたがり屋の経営者はたくさんい

ます。目先のことしか見えていない人，ましてや拝金主義やエゴにまみれた人は，人の上に立ってはいけません。

諸君もいずれ，リーダーになる日がくるかと思えます。リーダーとして人の上に立つ一番の条件は，「私心」がない，いわゆる，自分ひとりの利益をはかろうとする気持ちを持たないということが大切です。人間ですから誰でも私心はあります。しかしそれも程度問題です。世のため人のために尽くすのが人の上に立つリーダーの生きがいであり，トップの私心とはそういうものであるべきです。本学のモットーであるVOSのServices（世のための奉仕）の精神です。そういうことを絶えず考えながら生きていく「無私」の人になってください。そして無私の人であるとともに，「わが道を行く」ことも必要です。私心がないからこそ，わが道を行けます。わが道を行く気概を持ってください。しかし気概だけではいけません。それを裏付ける識見も必要です。わが道を行く気概と識見を兼ね備えてこそ，真のリーダーと成り得ます。

いよいよ，旅立ちの時となりました。諸君の未来は，洋々たるものであり，諸君，自らが切り開いていくことができます。諸君が，本学のVOS精神に則り，努力，勤勉，責任感をもった社会人となり，大いに活躍されることを期待します。

卒業・修了を祝して



果て知れぬ海へ

理事・副学長
(入試・学生・研究担当)

丸山 久一

学部課程の卒業および修士課程・博士後期課程の修了おめでとうございます。本学から巣立って行く皆さんに饒の言葉を贈りたいと思います。

卒業というのは、言うまでもなく、一つの区切りです。そこから、新たな出発が始まります。米国では、卒業式は“始まり”という意味のCommencementと言います。言葉はその国の文化、価値観を示していて興味は尽きませんが、ここでは、来し方を見、行く末を考えるとという立場で、区切りとしての卒業と捉えたいと思います。

さて、皆さんがこれから進む道はどのようなものでしょうか。それに対して、本学での教育は何を与えてくれたのでしょうか。これに対して、本学の責任者の一人として考えたいと思います。

本学で最初の卒業生を世に送り出してから27年が経ちます。全体として見れば、本学の卒業生がどのようになるかは凡その予想が立ちますが、個別に見れば、全く予測ができないというのが実感です。では、本学での教育はどのように役立っているのでしょうか。実践的、創造的技術者を育成するという目的は達成されているのでしょうか。これについては、卒業生の社会的評価が答えを出していると思います。

ただし、心して頂きたいのは、本学での教育は、あくまで、皆さんにその基礎を用意したというだけです。将来の成功は、皆さんの努力次第です。昨年30周年記念行事における同窓会シンポジウムで、第1期生の山口さん、第2期生の遠藤さんから熱いメッセージが贈られましたが、一寸先が見えない状況で、必死に頑張ってきた結果が現在の地位を築いていることが強いインパクトで伝わってきました。

社会が、企業が皆さんに期待しているのは、約束された成功ではありません。果て知れぬ未知の世界に積極果敢に挑戦して行く勇気であり、実践力です。先が

読めないからやってみる、人がやらないからやってみる。これが、実践的・創造的技術者の魂です。よく、失敗を恐れるなど言います。でも、無我夢中で取り組んでいる時には、結果を考える余裕はありません。結果と言っても、どの時点でのことかによって異なります。好評を博したNHKの“プロジェクトX”を見て思ったことは、ある目標を達成するまで諦めないということです。失敗というのは、諦めた瞬間に現実化します。挑戦し続けている間は、レベルの向上はあっても、結果の失敗はありません。

一つの成功体験は、往々にして、その人の成長を止め、次の失敗に繋がるのはよく聞く話です。15歳でフィギュアスケートの世界選手権を制した浅田真央選手も、その後1年近く勝てない時期がありました。ただ、彼女の凄いところは、その間、まだ誰も実行しなかったジャンプ前にステップを入れるという難技に挑戦し続け、自分のものにしたことです。そして、再度、世界一になりました。

昨年のWBC（世界野球選手権）で日本を初代チャンピオンに導いた王監督の若い時の言葉を思い出します。王さんは、三冠王にも数回輝き、ホームランの数は通算800本を超える世界一の記録を残しています。ただ、ホームラン王になろうが、三冠王になろうが、所属のジャイアンツは、常に、若い有能な選手を獲得して王さんと競わせたそうです。王さんにしてみたら、これだけ実績を残しているのに、何で同じポジションに競争相手を獲得してくるのかと腹が立ったこともあったとか。しかし、負けたくないという思いを持ち続けた結果、世界に誇れる記録を達成することになりました。

最後にもう一度。チャレンジ精神を忘れずに。皆さんのご多幸を祈ります。

卒業・修了を祝して



変革の時代と河井継之助

長岡市長

森 民夫

長岡技術科学大学を卒業・修了される皆さん、おめでとうございます。学業生活の節目を迎えられる皆さんの門出を、心からお祝い申し上げます。

皆さんはこれからいよいよ実社会へ、あるいはさらなる勉学の道へと、新たな第一歩を踏み出すこととなります。「考え出す大学」の創造性あふれる教育のなかで磨かれた、問題を解決する力、新しい何かを発見する力、先を見通す力、実践する力を持って大きく飛躍され、志を達成されることを心から期待します。

昨年12月27日、長岡市に「河井継之助記念館」が開館しました。幕末の長岡藩で筆頭家老として藩政を担った河井継之助は、幕末から明治維新という激動の時代を駆け抜けた一人でした。

英傑と呼ばれ、藩政改革に辣腕をふるった継之助は、心ならずも北越辰辰戦争に突入せざるを得なくなってしまいます。しかしその直前に、明治新政府軍にあてた「嘆願書」の内容には驚くべきものがありました。当時、武士、町民、農民などに分かれた階級社会であったにもかかわらず、「嘆願書」にはすべての階級を含めて「人民」という記述がなされています。また、「日本国」「世界の恥さらしにならないような国を作り上げたい」とも書かれていました。現代の民主主義を先取りした内容であるのみならず、日本という国全体を見渡して、国際社会に対応するための具体的な提言が書かれていたのです。ペリーが黒船で来航してからわずか15年後の時代にあって、未来を予見したかのようなグローバルな感覚に、私は心を揺さぶられました。

現在、格差社会の到来が叫ばれ、教育問題、危機管理問題など、さまざまな社会不安が私たちの上に

のしかかっています。また、IT技術の飛躍的な進展、あらゆる分野での国際化など、かつて体験したことのないパラダイム・シフトが起きています。私たちは今、変革の時代を迎えています。

インターネットやさまざまなメディアの発達により、これから世界はますます狭くなってゆくでしょう。価値観の多様化もさらに加速するでしょう。そんな時代であるからこそ、かつて継之助が抱いていたような、時代を先取りするグローバル感覚が必要であると思います。

ただ、継之助は一朝一夕にこの感覚を身につけたわけではありません。江戸や西国に遊学し、行く先々の実情をつぶさに見てきたこと、師や盟友と出会い、交わりを結んだことなどが血となり肉となって、人間・河井継之助をつくったといえるのではないのでしょうか。昔も今も、経験や体験から自分の頭で考え、学び取ることこそ、最も大切なことだと思います。

どうか皆さん、旺盛な好奇心をもって、恐れずに困難や課題にチャレンジしてください。異なる文化や価値観を尊重し、自分自身の個性と得意分野を磨きながら、物事の本質を見通せる感覚を養ってください。そして、自分で考え自分で行動する、自主自立の気概で、変革の時代の大海に出航してください。私たち長岡市民は、皆さんを応援しています。

最後になりましたが、教職員の皆様の御尽力と保護者の皆様の御労苦に対し、深く敬意を表しますとともに、卒業・修了される皆さんの御健康と御多幸を心からお祈り申し上げて、お祝いの言葉といたします。

贈る言葉

「どう生きるか」を考えて

卒業、修了、おめでとうございます。
「光陰矢のごとし」と感じていることと思います。激しく変化している社会で皆さんが健闘されることを期待します。

先日、会社へ就職して2年目になる修了生がリクルーターで研究室に来ました。「技大生は実務訓練で企業の厳しさを十分経験しているでしょう。」と言ったところ、彼は「実務訓練生はやはりお客さん。企業の納期やコスト、人間関係はほんとにシビアです。勉強ももつとしておけばよかった。」と言っていました。皆さんはどう感じるでしょうか。

インドや中国では、大学へ入るために毎日10時間以上も必死で勉強している大勢の若者がいます

機械系長

矢鍋重夫



が、日本では最近特に、大学生の学力低下が目立ちます。皆さんはそのことを知らず、情報化社会の申し子として、携帯やパソコンを使いこなしながら、コンビニ、アルバイト、車などなど、新しい生活様式と価値観で生きていくことと思います。従来の価値観と違っていいのですが、技術者として問題に直面したとき、どう対処するかは大事です。皆さんは、専門基礎力で何が問題かを把握し、論理的思考とチャレンジ精神で試行錯誤を繰り返しながら実験や計算を行い、問題の原因や発生メカニズム、解決方法などを見出すことを期待されています。

一度しかない人生をどう生きるか、自分が生きた意味があるように、生きてください。

卒業・修了にあたって
4年間を振り返って

木暮貴博
(群馬高専出身)
機械創造工学専攻2年



大学院修士課程

大学に編入してからの4年間、あっという間に過ぎ去った気がします。良い事も悪い事も多々あって、とても充実した学生生活を送れたように感じます。

振り返ってみると、入学当初は毎週のレポートと試験で眠れない夜が続き苦しみました。何度も大学を辞めようかと思いましたが、その度に、友人に励まされ、なんとか乗り越えることができました。

また長岡の四季は変化が激しく、特に夏は最高で、大学の立地的に海も山も近く、よく友人と授業を抜け出して釣りをしたり、バイクで走りに行ったりしたものです。そして冬はその積雪の多さに驚きました。当て逃げをされてからは冬が嫌いになりましたが、私の地元である群馬県とは違って、唇が割れなくなっただけは良い点だと思いました。

研究活動においては、非常に恵まれていたのか、二人の先生からご指導を頂きました。研究室が違うにも関わらず、毎週のゼミにも参加させて頂き、他の研究室を知るとてもよい経験になりました。修士の2年間はホント



北海道旭川学会、摩周湖展望台にて

に地獄のような生活で、寿命も10年ぐらい縮んだ気がします。しかし、自分の能力を大きく飛躍させられたように感じます。4月からは社会人となりますが、今まで学んできたことをしっかりと活かせるように頑張っていきたいと思います。

最後になりますが、今まで御世話になりました先生方、友人、そしてどんな時も支えてくれた両親に深く感謝します。本当にありがとうございました。

卒業・修了にあたって
卒業にあたって

佐藤和樹
(山形県立鶴岡工業高校出身)
機械創造工学課程4年



学部

月日がたつのは早いもので、卒業の時期を迎えようとしています。私が、長岡で過ごした4年間は、何ものにもかえがたい大切な時間になりました。私が、ここまで何とかやってくることができたのも良き友人たちに恵まれたからです。試験前にはお互いが教え合ったり、また毎日のたわいもない会話がすごく楽しかったりしました。そんな私の友人の多くは大学院に進学しますが、私は就職します。彼らと、もうちょっと学生生活を共に過ごしたいのですが、また何年後かにお互いが成長した姿で再会できれば、最高です。

私はスポーツが好きで、その中で最近印象に残ったことがあります。松坂選手がアメリカ大リーグ、レッドソックスの入団会見で「夢という言葉は好きではありません。なぜなら、夢は見ることができてもかなわないものだと思うからです。大リーグで投げることを信じて目標にできたから今ここにいると思います。」と言っていたことです。夢とは将来実現させたい願いで、目標とは目的を達成することを前提として定めるものだと思います。



2006年夏、花火大会にて

ます。夢とするのか、目標とするのか、そこには大きな違いがあることを教えられた気がします。私はいろんなことを夢見ることが多いですが、常に自分の人生の目標を持って、社会人として成長していきたいと思っています。

最後に先生方、研究室の先輩方、友人、お世話になった皆さんに心から感謝します。本当にありがとうございました。

卒業・修了にあたって
4年間を振り返って

張朝暉
(中国出身)
経営情報システム工学専攻2年



大学院修士課程(留学生)

私は、中国からの留学生です。時間の経つのは本当に早いもので、本学に入学してあっという間に4年という月日が流れました。4年間を振り返ってみると、充実した留学生活を送れたと思います。

本学は、留学生に快適な生活・学習環境を提供するとともに、大学祭、社会見学旅行、長岡国際祭りなど、多彩な活動機会や場を設けています。これらの活動と場を通して、いろいろな体験をし、日本をより深く理解でき、自分自身も鍛えられて、人生経験を豊かにしてくれました。日本人学生や他国からの留学生との出会い、一緒に多くの楽しい時を過ごすことができ、私にとって一生忘れられない思い出になります。

修士の2年間、経営情報システム工学専攻の先生方の丁寧なご指導の下で、学問の奥深さ・厳しさとともに、研究の方法を少しずつ身につけて、研究の楽しさを段々味わえるようになりました。修士論文を書いている時、勿論辛いことがいろいろありましたが、そのたびに指導教員を始め、先輩からご指導やご



研究室の忘年会にて

助言をいただいたり、温かい励ましの言葉をいただいたりして、大学院でかけがえのない有意義なものを沢山得ることができました。この4年間で学んだことを糧にし、頑張っていきたいと思っています。

最後に、今までお世話になった先生方や研究室の皆様方、国際課の皆様方、友人そして両親に心より感謝致します。本当にありがとうございました。

贈る言葉

安全・安心・快適のための技術

卒業・修了おめでとうございます。長岡技術科学大学は平成18年10月1日に30周年を迎えました。皆さんはこのような節目のときに就職、あるいは、大学院修士課程、博士課程へ進学されます。今後の皆さんの更なる飛躍を願っています。

皆さんの中には平成16年10月23日の新潟中越地震で恐ろしい思いをされた方もおられることでしょう。また、平成18年7月7日には北海道佐呂間町で竜巻が発生し、9人が死亡、21人が重軽傷を負いました。竜巻の被害としては、統計のある1971年以降、最悪の死者数となったそうです。竜巻が起きたのはわずか1分くらいですが、こんなに大きな被害をもたらしました。この竜巻、どのように発生するのかはわかっているようですが、竜巻がいつどこでおきるのか、予測することはとてもむずかしいと言われていました。それは、急に発生して、せまい地域で大きな被害をもたらす、すぐに消えてしまうからだそうです。

電気系長

高田 雄介



インターネットで「安全・安心」を検索すると、「食の安全・安心」「安全・安心まちづくり」「安全・安心のための社会技術」等々が紹介されています。現代は多くのハイテクで満ち溢れています。確かに、気象衛星「ひまわり」のお陰で天気予報的中率は飛躍的に伸びています。しかし、上で述べたような自然災害は毎年のように起こり、人類を恐怖に陥れています。このような状態では安心して生活することはできません。

これからは「安全・安心」を目指したもの、さらには「快適」を加えた「安全・安心・快適のための技術」が必要不可欠だと思います。これらの技術を支えるのは、皆さんです。

本学から巣立った皆さんが社会において、いかに活躍しているかということが長岡技術科学大学の価値を決めます。皆さんのご活躍を心から期待しています。

時間の感じ方

卒業・修了にあたって

吉田 正堯
(長岡高専出身)
電気電子情報工学専攻2年



高専から編入した時、それほど違和感を感じなかったのは、地理的なことよりも、やはり編入生が多いため、だと思います。授業や実験が多くて大変な学部の頃も、今思えば友達と過ごす時間が多かったです。実務訓練先でお世話になった方々とも、学会に行けば「お久しぶりです」「お、元気？」とご挨拶。気がつけば、たくさんの人と出会っています。会うといえ、やはり研究室。毎日顔を合わせ、長い時間一緒にいるわけですから、いろいろなことがあります。様々な個性がぶつかり、時には自分で気付けないような価値観を得られることも多いです。

研究をしていると、次第に思ってくることがあります。それは、なぜあの時に気がつかなかったんだらう…もっと早く取りかかっていたら…という後悔の気持ち。長い時間をかけてやってきた実験を最初からやり直すとき、本当にそう実感しました。研究に限らず、誰でも、どんなときでもそう思うことは多いはず。でも見方を変えれば、成長そのものだと思うこともできます。以前の自分



研究室旅行

では気づけなくても、今の自分は気づいているのですから。

過ぎた時間はあっという間だと、いつもそう思っていました。でも最近は、そうでもないのかな、と思い始めています。小さなことの積み重ねですが、過ぎた時間の分だけ成長しているはず。これまでの成長を支えて下さった方々への感謝の気持ちを忘れず、明日へつなげていきたいと思っています。

卒業・修了にあたって

2年間を振り返って

新宮 澄夫
(東京都立高専出身)
電気電子情報工学専攻4年



私が高専から技大に編入してからの2年間、大学の勉強に研究室の研究、新しい趣味の開拓等、色々なことを経験し、気がついたらもう卒業の時になっていました。振り返れば本当にあっという間だった気がします。

初めての一人暮らしに親のありがたさを改めて感じ、冬には本当の積雪というのがどういふものかを教えられました。正月に帰省した時、新幹線から降りると春のように暖かく感じたのを覚えています。

大学の勉強では常にレポートか試験に追われて四苦八苦していましたが、学生宿舎の友人達と協力して乗り切り、今となっては楽しい思い出です。

ところでこの2年間を勉強と趣味両方について自己採点してみると、75点くらいだったような気がしています。決して悪い結果ではないのですが、卒業を間近にして「もう少しできたんじゃないか、あれにも取り組んでおけばよかった」というようなことを強く感じることがあります。やはり大学生活というのはそれだけかけがえの無い貴重な時間なので



オープンハウスにて(筆者一番右上)

しょう。

最後に御指導頂いた先生方、研究室の先輩方、そして楽しい学生生活を送らせてくれた友人達に心から感謝しております。それからほとんど毎日利用させて頂いた学生食堂と売店のスタッフのみなさまにも感謝いたします。本当にありがとうございました。

卒業・修了にあたって

忘れられない日々

チュー コンミン
(ベトナム出身)
エネルギー・環境工学専攻5年



日に日に時間が流れて行くのは誰も気づきません。それは自然の法則です。しかし卒業前の私にとっては楽しいことであり、得られた成果への誇りでもあります。その半面、先生、友達、学校そして日本と別れることを寂しく感じます。

3年半あっという間に経ちました。楽しいこと、寂しいことも沢山ありました。一人でいる時に日本で経験したことが頭の中に蘇ってきます。初めて日本に来た時のこと、異国での生活への戸惑い、日本人の働く姿に感心したこと、レポートを完成するために徹夜したこと、先生の熱心な指導の下、初めて自分の報告が論文集に載るといふ知らせを聞いた時どんなにびっくりしたことか。ベトナム人同士が集まった時のこと、ふと外に雪が降っているのを見ると故郷を思い出したこと、すべてが蘇ってきます。あと数日で私はここから離れなければなりません。いつかこの日が来ると自分に言い聞かせています。これからもっと頑張っ自分の可能性を最大限に発揮し、そして熱心に指導してくれた先生、と



愛知万博・都市交通研究室メンバー

もに頑張ってきた友達に再会でき、日本での思い出話をする事ができることを望んでいます。

最後に先生に、学校に、そして一緒に頑張ってきた友達に心から感謝しています。ベトナムに帰っても日本での留学生活での辛い思い出、甘い思い出を心の中に刻み、大切な思い出にしていきたいと思っています。

贈る言葉

ご卒業に向けて

ご卒業おめでとうございます。
 洋々たる将来に向けて、いよいよご出発の時です。
 高学歴を得て卒業される諸君には、社会から多くの期待がかけられています。どんな期待か？皆が幸せで快適な生活をエンジョイできる社会を率先してつくる役割、リーダーになってほしいという期待です。現在、世界には環境、食料、健康等、人類の存亡に関わる大きな問題が、多々存在します。これらの問題解決に取り組むのは、君たち、これからの知的エリートの役割です。また、情報、エネルギー、材料分野などにおいて、生活向上のための発明や技術向上を推進するのも、諸君です。

物質・材料系長

植松 敬三

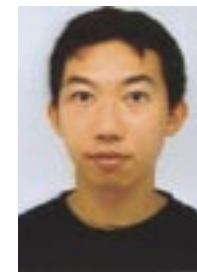


諸君は、本学で学ばれた、自然科学の知識と技術を持っています。空論でない、非常に現実的な、確かな能力をもっているのです。これらの能力を武器として、思い切り、ご活躍下さい。特に自分の長所は、一層伸ばす努力をされて下さい。常にそのための自己研鑽に励んで下さい。失敗することもあるかもしれませんが、失敗は、それをバネにすると、必ず次の大いなる飛躍のエネルギーになります。自分の信念や夢を持ち続けて下さい。ものの本に、自分の信念に従って生きる人生には失敗はなく、金銭的には恵まれないことはあっても、大きな幸せと満足は得られるとありました。すばらしい人生と、存分なご活躍をお祈り致します。

4年間

卒業・修了にあたって

伊藤 浩司
(鈴鹿高専出身
 材料開発工学専攻2年)



大学院修士課程

4年間。これは、長岡に住み生活した時間です。高専から編入してきた僕にとっては、これまでの人生の1/6を過ごしました。その間に数々の試練がありました。材料開発工学課程にとっては、初のJABEEの認定を受けました。冬休みは寮の暖房がつかないので、布団乾燥機を使って耐え凌いでいた日々が懐かしい気がします。また、研究においては、なかなかテーマがうまくいかずに悩んだ日々があったり、学部卒業時には就職しようといういろんな雑誌を手に取り、探した日々もあります。でも、大学院に進学したことで、研究室の温かい先輩や、後輩に恵まれ、いろんな思いを共有できたこと。所属していた大学サークルの悠久太鼓愛好会では、夏の長岡祭の前夜祭を太鼓で盛り上げたこと。そのような喜怒哀楽において、濃厚な学生生活を送りました。

日々の生活を精一杯楽しんで生きてきたことは、これからの社会生活を有意義にしていこうと必要なことだと思いました。その中で、人と触れ合うことやいろいろな仕事を受け



山田明文教授の最終講義後の集合写真

持つことにより自分自身が成長したり、相手を助けることになったり、助けられたりする絆ができることを知りました。社会に出るに当たりそれを肝に銘じたいと思います。お世話になった先生方、両親、友人に心から感謝致します。これからもよろしくお祈りします。

卒業

卒業・修了にあたって

入学してから4年—今更ながら、月日が経つことの早さを実感しています。思い返せば寒く長い冬、その後訪れる清々しい春を何度も過ごし、また水害や震災など様々な出来事にも遭遇しました。

そして4年前の春、緊張しながら入学式に向かったことを今でも思い出します。私の大学生活のスタートです。

私は、正直なところ本学への進学は本意ではなかった。単に都会の大学へ進みたかったのが理由です。今思えば、なんて浅はかで甘い考えだったのだろうと思いますが、その時は真剣でした。しかし、今はここに進学して「本当に本当によかった!!」と心からそう思います。それは入学して以来、今までずっと仲良くしてくれた友人や、色々と目を掛けてくださった先生方、研究室の方々、バイトで知り合った方々、勉強や研究…と様々な出会いがあり、そしてこのようなすばらしい仲間と毎日笑い合い、時には励まし合いながら充実した日々を過ごしてこれたからです。大学生活で得た最大の宝物—出会い。このような出会

佐々木 沙織
(静岡市立高校出身
 材料開発工学課程4年)



学部



就職内定を祝っての食事に

いが私を大きく成長させてくれたんだと思います。本学を卒業し長岡を離れますが、これから出合いを大切に歩いていきます。

最後にお世話になった先生方、友人、研究室のみなさん、陰ながら支えてくれた家族（特におじいちゃん、おばあちゃん）に深く感謝致します。4年間本当にありがとうございました。

所感と抱負

卒業・修了にあたって

門脇 春彦
(秋田県立能代工業高校出身
 材料工学専攻5年)

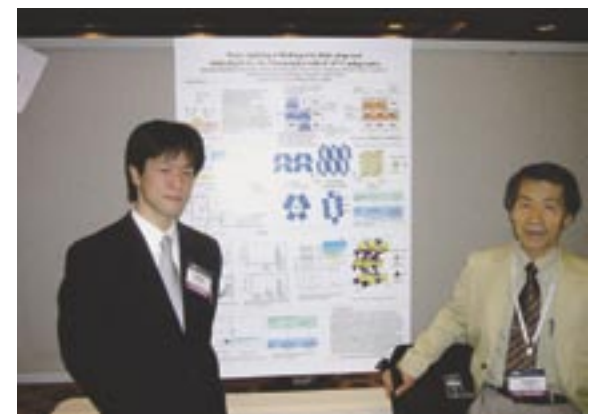


大学院博士後期課程

学部1年から入学し、今年で長岡の学生生活も9年目になりました。これまでずっと先輩や後輩を見送る立場にいましたが、ようやく見送られる側になりました。大学入学時に想像した「大学卒業時の姿」に近づくことができただろうか。学生生活を振り返ってみると、その目標を達成するには、少々甘いところがあったかもしれませんが、長くもあり短くもあった密度の高い時間を過ごすことができました。

密度の高い時間を過ごした体験の一つに、国際学会に参加したことが挙げられます。その場では学術的内容のやりとりだけではなく、その国の人がもつ言語、趣向や思考などの文化の違いを肌で感じる貴重な体験をしました。この体験は私の考え方の幅を一気に広げるものであり、人間的成長に大きく影響したと思います。

その時々を感じる時間の流れの早さは、学部から修士、博士へと進むにつれ、年を追うごとに増しているように感じられます。また、この感覚はこの先、ますます加速度



MRS学会場にて

をもって進むものだと思います。これから先も、このような流れを持つ時間を大切に使い、充実した未来を築きたいと思っています。

最後に、指導教員の井上先生を始め諸先生方のご指導により、大きな成長を遂げることができ、感謝申し上げます。今春には社会人への遅いスタートを切りますが、勤務先では長岡技科大の評価がさらに高まるように努め、頑張っていきたいと思っています。

贈る言葉

変化の時代を柔軟に乗り切ろう

環境・建設系長

松本昌二



ご卒業、修了、おめでとうございます。

中越地震から2年余りがすぎましたが、市内にはまだ大勢の方が仮設住宅に住んでいます。山古志に行くと、施設の復旧は進みましたが、生活の復興はまだのようで、影響の大きさを痛感します。私は昨年11月にオーストラリアに調査に行きましたが、5年間も大干ばつが続いていると聞きました。

地震、豪雪など自然現象だけではなく、君たちがこれから働く会社、職場とその環境は、変化し続けています。嘗て経験したこと、学習したことに似ているようでも、同じことの繰り返しはなく、常に変化しています。このような「変化」に順応し対応する、自分で「変化」を創造していくには、しなやかな柔軟性、フレキシブルな頭脳が要求されます。

そのためには専門分野はより深めて、しかも一般教養を広げる、人によって呼び方は様々ですが、T字型人間、V字型人間になることです。単細胞的な人間ではなく、多面的で流動的な思考ができる人間です。専門分野は極めます、でもそれだけではなく、政治、経済、歴史、文化など幅広い分野の読書や、他分野の人との交流、コミュニケーションが必要です。今のような「変化の時代」を乗り切るために、日頃から心がけるポイントと思います。もちろん簡単になれるものではありません。そういう目標を持って、邁進して下さい。

健康な心身で、大いに活躍されることを期待します。

卒業・修了にあたって

社会人学生として過ごした2年間

環境システム工学課程4年 中村 猛利 (社会人)

学部



苫小牧高専を卒業してからTORAYに入社し、会社の内留制度を利用して、本大学に来ました。入学式では、久しぶりの学生生活にわくわくしながら出席した事や学長の言葉『積小為大』に感動し英語勉強で実践しようと決意した事を覚えています。

大学生活の思い出といえば、1つ目は、水圏土壌環境制御研究室での研究生活です。会社生活にはないランチミーティングやゼミ、2度の学会発表などは、どれも良い思い出になりました。大橋教授には、研究の着眼点や考え方を学びました。2つ目は、長岡技大ならではのサークル活動です。酒学部とヨット部に所属し、利き酒大会に参加したり、クルーザーヨットで佐渡へ出かけたりしました。3つ目は、自然多き長岡での生活です。大雪の中、第2子が生まれた事や新潟近隣の温泉めぐりをした事、日本一の長岡花火を連日見た事などが思い出されます。

後輩へのアドバイスを1つ。常に心がけてほしい事があります。それは、謙虚と好奇心です。この言葉を意識して日々精進して下さい。



学会発表にて(筆者：前列中央)

い。長岡技大には、多くの刺激があります。日本トップレベルの研究や個性的なサークル活動、外国人留学生の多さ、著名人の講演会など、これらに積極的に参加して下さい。

最後にこういった機会を与えてくれたTORAYと大学でお世話になった方々に心から感謝したいと思います。また、慣れない土地で2人の子供を育てながら見守ってくれた妻にも感謝したいと思います。

卒業・修了にあたって

支えてくれた人たちへ

環境システム工学専攻2年 堀 網枝 (新潟明訓高校出身)

大学院修士課程



早いもので、入学してから6年が経ちます。大学生活を振り返ってみて「楽しい学生生活でした」と言いたいところですが、正直、つらい時や投げ出してしまいたい時がたくさんありました。学部時代は、同学年の友人たちとよく徹夜でレポートやテスト勉強をしました。大学院では、研究の壁に何度もぶちあたり、よく悩みました。

でも、そんなつらいときに話を聞いてくれたり、一緒に考えてくれたり、励ましてくれたりした友人たちのおかげで乗り越えることができました、私はとても成長することができたと思います。つらいこともあったけど、それも今ではいい思い出となっており、なんだかんだ言ってもとても楽しい学生生活でした。

6年間の充実した大学生活を送ることができたのも、私を支えてくれた人たちのおかげです。このようなかけがえのない人たちとの出会いが、学生生活で得られた一番の宝物だと思っています。本学で学生生活を送れて本当に良かったと思うと共に、入学するきっかけを与えてくれた方に感謝しています。



環境材料科学研究室忘年会

春からは社会人になりますが、今までの出会いと新しい出会いを大切に、本学で学んだことや経験したことを生かしてがんばりたいと思います。

最後になりましたが、お世話になった先生方、先輩や友人、長岡で出会った方々、そして両親に心から感謝しています。本当にありがとうございました。

卒業・修了にあたって

4年の月日に思う

建設工学専攻2年 増戸 洋幸 (福島高専出身)

大学院修士課程



ワゴン車一杯に荷物を載せ、太平洋側からやってきたあの日。3月も末だというのに山にはまだ雪が多く残っていることに驚かされたあの日から、もう4年という月日が経とうとしています。

この4年間、私は多くの事を学ぶ事ができました。「努力」という行為は、自分の今ある限界をより高める行為だということ。「決断」は新鮮さが命だということ。そして、いつ起こるかもしれない自然災害に対する日々の「備え」が必要だということ。私と大学生活を共に過ごした友人や、この「長岡」という地がそれを教えてくれました。また、4年の月日は、私にたくさんの思い出を作る機会を与えてくれました。日本一と称される打ち上げ花火を頭上に見上げながら酒を飲み、海では銚子を片手に魚を獲り、友人たちと車で北海道一周の旅に出たりと書き出せばきりがないほどです。

私の尊敬する方が卒業された大学という理由でこの長岡技術科学大学に編入してからの4年間、多くの方々と出会い、貴重な助言や



研究室のみなさんと

叱咤激励を頂いたお陰で人間的に大きく成長できた自分を感じながら、その方に一步近づくことができたかなと思う今日この頃です。

最後になりましたが、これまで私を支えてくれた友人、研究室の皆さん、諸先生方、そして私の決断をいつも陰ながら見守ってくれた両親に心から感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

贈る言葉

豊かな言葉

心底から充実を実感できる人にも、不安を抱えてきた人にも、心からお祝いの言葉を贈ります。

人は、母国や外国の「言葉」を使ってものを考え、喜怒哀楽を表現します。卒業・修了を迎えて様々な思いが去来するでしょうが、もし言葉がなければ、生理的な感覚以上の感慨は持てないでしょう。人間が「考える葦」であるのは、言葉を持っているからであり、逆に言葉がなければ考えることもできないということです。しかし言葉を持つことと考えられることとの関係は、全か無かではなく、質の高い思考や判断が豊かな言語能力に支えられることは、優れた思想家や評論家の文章を読めば良く分かります。的確な言葉を選んで、完結した文章を作る

生物系長

曾田 邦嗣



ことが、自分の考えを正確に伝えるためだけでなく、緻密な思考を進める上でも必須であることは、心に留めておく必要があると思います。工学系の本学に、人文系の作文・語学・教養科目を設ける目的の1つは、この点にあると考えます。逆に、ワン・フレーズ文の多用や貧弱な用語は、自身の思考の浅薄さを露呈するだけでなく、他の人に誤解を与え、文化の貧困化を助長することになりかねません。

私は、技大教員の1人として、諸君がそれぞれの専門分野で勝れた技術を開発し、真理の発見に貢献されると共に、広い視野と適確な判断力を持つ先導的技術者・研究者として大成されることを期待して、上の言葉を贈ります。

成長

卒業・修了にあたって

皆川 明穂
新潟県立三条高校出身
生物機能工学専攻2年



大学院修士課程

高校を卒業し、大学に入学してから6年という長い月日が経っていました。小学校と同じ期間なわけですが、小1から小6では身体的に大きく成長して卒業しました。大学6年間で身長こそ変わらないものの、精神的に大きく成長してきたのではないかと思います。

大学生活では勉強・アルバイト・就活などを通して様々な経験ができました。特に、研究室に入ってから3年間は充実しており、多くのことを学びました。憧れであった研究に取り組めることに喜んだものの、理想と現実に悩み、研究面だけでなく生活面についても先生からアドバイスを頂いたことにはとても感謝しています。研究室という限られた空間で長い時間を過ごし、自分とは考えの違う人たちとも仲良くなれたのはとても刺激的でした。飲み会では普段飲まないような日本酒を飲ませてもらったり、植物研ならではのゼミ旅行など楽しいこともたくさんありました。逃げ出したいときもありました。そんなとき一緒にいてくれる友人がいたからこそ無事学生生活を終えることができたと思います。

改めて思うと多くの人々に出会い、支えら



研究室のOB・OGが一同に集まり...

れてきたからこそ今の自分があるのだなと実感します。これからも様々な経験をし、多くの人々と出会うことでさらに成長していきたいと思っています。

最後になりましたが、大学院進学を理解し、これまでの学生生活を支えてくれた両親、家族に心から感謝致します。どうもありがとうございました。

卒業・修了にあたって
大学生生活を振り返って

太田 有紀
函館高専出身
生物機能工学課程4年



学部

大学に編入学して2年が経ち、まもなく卒業を迎えます。長かった学生生活を終えて、いよいよ社会に出ることとなりました。

大学生活を振り返ってみると研究室配属が私にとって衝撃的な出来事でした。初めてのゼミでは分からないことが多く、戸惑っていましたが、先輩たちが親切に教えてくれました。研究室を使いやすくするために自ら率先して行動すること、譲り合いながら実験を行うなど、そういう姿勢を見習わなければなあと思いました。

研究やゼミに追われる毎日でしたが、お花見や花火大会、研究室旅行や鍋パーティーなどたくさんの楽しい思い出ができました。

この2年間の大学生活は、多くの人との出会いがあり、そして貴重な経験をすることができました。今春には社会人になりますが、人間関係を大切に、さま



夏旅行～瀬波にて～

ざまな人の価値観を取り入れて視野を広げていきたいと思っています。

最後になりましたが、お世話になった先生方、研究室の皆さん、そして友人に心から感謝致します。本当にありがとうございました。

卒業・修了にあたって
13年ぶりの学生生活

須貝 裕之
社会人
情報・制御工学専攻5年



大学院博士後期課程

すべての学生がそうであるように、私にとっても大学での3年間は大変思い出深いものになりました。この間に7.13新潟水害や中越地震があり、さらに私生活では子供が生まれ、気がつけば卒業という感じでした。

私は新潟県の試験研究機関である工業技術総合研究所から、研修の形でこちらの大学にお世話になっておりました。これまで働いていた職場とはまったく異なる環境で、さらに大学を卒業してから13年ぶりの学生生活でもあり、研究室を見渡せば学生さんとは一回り以上の年齢差と、最初は「話が合わないのではないだろうか?」と少々不安に思っていました。ところが実際に話してみると、自動車の話やパソコンの話など機械系の学生にとって永遠のテーマ?で話が弾み、仕事がおろそかになることもたびたびでしたが、大変楽しい時間を過ごすことがで



研究室のみなさんと

きました。

また指導教員である田辺先生にはいろいろなことに挑戦する機会を与えていただき、大変感謝しています。今後は大学で学んだことを仕事に活かして行きたいと思っています。

最後にこの場をお借りして、田辺先生と研究室の皆様にお礼を申し上げます。

贈る言葉

雨ニモマケズ・・・

卒業そして修了おめでとう。多くの皆さんは、この数年間の長岡生活の中で、大震災や集中豪雨、豪雪に、自然の大きな力を体感し、被害を乗り越え、自然と共生してゆくための英知を学んだことと思います。これらの貴重な体験を通して、住民や行政、NPO、企業が避難、復旧・復興の諸活動で有機的に連携してゆくためには、多様な情報の、交換、収集、伝達や計画・決定への活用の大切さを痛感しました。

皆さんが取り組んだ経営情報システム工学は、発展するICTを活かして、さまざまな組織的、社会的活動を支え、貢献してゆくことを目指しています。皆さんには、本課程、専攻の卒業、修了生のパイオニアとして、それぞれの領域、組織等で先導的な役割を果たし、この分野の道を拓き、後

経営情報系長

中村 和男



輩達にその重要性を示してもらえることを期待します。

約110年前に北上川の畔で生まれ、その短い命を燃やした実践的な科学者/文学者である宮沢賢治。その自然への畏敬、専門能力を生かした社会への奉仕とコミュニティ作り、大きなスケールの人類愛と宇宙観は、私達に一つの生きざまを示してくれています。

雨ニモマケズ 風ニモマケズ・・・ 東ニ病氣ノコドモアレバ 行ッテ看病シテヤリ・・・ 北ニケンクワヤソショウガアレバ ツマラナイカラヤメロトイヒ・・・ ミンナニデクノポートヨバレ ホメラレモセズ クニモサレズ サウイフモノニ ワタシハナリタイ

出会う

卒業・修了にあたって

経営情報システム工学専攻2年 本望 諭 (長岡高専出身)



大学院修士課程

私が本学に3年次編入したのは4年前です。入学当初と比べてずいぶんと丸くなった自分の顔写真を眺めていると、いつの間にか月日経っていることを実感しています。この4年間、多くの人に支えてもらいながら過ごした日々は、これまでの私の人生の中で最も充実した時間だったと言っても過言ではありません。今、こうして大学生活を振り返ってみると、多くの人達との出会いが私を大きく成長させてくれたように思います。

素晴らしい先生方からは講義や研究を通じて多大なご指導を賜りました。様々な専門知識はもちろん、物事を考える時のアプローチの仕方を学べたことは、私にとって宝物です。

また、私の出会った友人達は皆、个性的で良いやつばかりでした。研究の合間や飲み会等において皆で語り合った事、バカな話で盛り上がった事は、この4年間で一番の思い出です。

私と皆さんとの出会いは偶然ですが、



日本一の長岡花火大会にて

過去に頂いた叱咤激励や助言、そして数々の思い出は全て、私にとって意味のある事でした。これからの人生で壁にぶつかった時は、長岡で過ごした日々を糧に突破口を切り開いていけると確信しています。これからも人との出会いを大切に、歩んでいきたいと思っています。

最後に、自分の両親に心より感謝いたします。本当にありがとうございました。

卒業にあたって

卒業・修了にあたって

経営情報システム工学課程4年 坂本 一 (宮崎県立佐土原高校出身)



学部

長岡技大に入学してたくさんを経験しました。この4年間の大学生活はこれまでの22年間の人生の中で最も充実していました。ここでは、たくさんの友達ができました。技大にはいろいろな地方から来る学生が多いです。それらの人はこれまでの生き方や価値観も違い、新鮮に感じることや刺激も多かったです。

大学生活を振り返ってみると、いつもアルバイトでした。生活費を稼ぐために始めたことですが、気がつけば勉強よりもアルバイト中心の生活になっていました。そのため、2年のテスト前は、本当に大変でした。たぶん、一緒に勉強してくれる友達がいなかったら単位をいくつか落としていたと思います。このころは本当に友達のありがたみを感じました。皆さんには単位は1年と3年の時にできる限りとっておくことをお勧めします。僕はそのおかげでなんとか進学できました。

僕が大学生活で一番必要だと感じたことは、いい友達をできるだけ多く持つこ



ポスターセッションにて

とだと思えます。一人だけでは絶対にできないこともあるし、僕自身も友達のおかげで乗り越えられたことはたくさんあります。今年からいよいよ社会人になります。また新しい環境になるので大学での経験を生かしてがんばっていこうと思います。不安も多いですが新しい出会いや、新しい環境に行くことは今からとても楽しみです。

最後に、これまでお世話になった先生方、先輩、友達、家族には本当に感謝しています。ありがとうございました。

長岡においで10年

卒業・修了にあたって

エネルギー・環境工学専攻5年 山田 文則 (新潟県立新潟工業高校出身)



大学院博士後期課程

新潟県の工業高校を卒業し、長岡技術科学大学に入学したのが10年前になります。私の出身は新潟市ですが、最初、長岡の雪の量には驚きました。最近では、大量の雪にも慣れ、長岡での生活も快適になるとともに、月日の経過を実感しています。学部では1年間休学し、その後、研究室に入室してからは、ゼミ、研究活動および学会の発表など、時間が駆け抜けるように過ぎていきました。学会での発表は、この3年間で20回ほどになり、今年はアメリカで開催された国際会議にも参加させていただきました。学会では、ほかの大学および研究機関の研究者と話す機会が多く、また、各地へ行くことができ、よい経験になったとともに、楽しかったです。

長岡では、大雪および大地震など、普段あまり経験することができない体験ができて良かったです。特に、中越地震は、自然の力の大きさを肌で感じる事ができたとともに、長岡での生活において最も強く印象に残った経験のひとつです。写真は、新潟県中越地震のときのものです。私が研究を行っていた木工



中越地震後の水工学研究室(筆者：左上)

学研究室です。研究室はひどいことになりましたが、研究室の学生に怪我がなくて良かったです。

長岡技術科学大学での10年間は、多くのものを学ぶ機会があり、良かったと思います。長い間、研究を指導していただいた細山田得三先生、故福嶋祐介先生、犬飼直之先生、水工学研究室および環境・建設系の教員の方々に、深く感謝致します。

贈る言葉

旅立ちを祝して

卒業生、修了生の皆様、ご卒業おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。いよいよ旅立ちの時がきました。自分の国とことばや生活習慣の違う日本に来て、とまどいや困った事も、たくさんあったと思います。これから社会に出て行った時に、今までと違うとまどいを感じるがあると思いますが、それを乗り越えて進んで行って下さい。

むつみ会は、春や夏のバザー、越後丘陵公園へのハイキング、座禅にホテル観賞、それからスピーチコンテスト。また今年は蓬平温泉へのバス旅行といろいろな行事を行ってきました。参加して下さった留学生の皆様はいかがでしたか？これも思い出のひとつにして下さい。これまで一生懸命勉強してきた事を土台

むつみ会会長

中川 睦子



にして、社会へ飛び出していく訳ですがみなさんの前には洋々たる未来があります。それを自分で切り開いて、進んで下さい。長岡に大都市にそして世界に羽ばたいて行く事を願っています。前進して下さい。その時の「がんばろう」という気持ちを忘れずに、旅立ってほしいと思います。長岡を第二のふるさと、心のふるさととして、たまには思い出してもらえば嬉しいです。有意義な人生を歩んでほしいと望みます。むつみ会を代表しまして、皆様方の今後の活躍を期待し、そして健康第一に過ごしていけますように。いつかまた、どこかでお会い出来る日が来る事を楽しみにしています。もう一度、ご卒業おめでとうございます。

贈る言葉

新しい門出を祝して

卒業・修了される皆さん、おめでとうございます。同窓会を代表して心からお祝いを申し上げます。そして同時に、長岡技術科学大学同窓会の正会員になられたことにも心からお喜び申し上げます。

本学は、今年度、めでたく開学30周年を迎えました。同窓会会員数は九千人を超え、日本国内にとどまらず、世界各地で活躍しています。皆さんも、歴史ある本学の同窓生として、各界でご活躍されますよう期待しております。

開学記念行事では、同窓会として、講演会とフットサル大会を主催しました。講演会では、企業の第一線で働く先輩お二人から、最先端のテクノロジーの現場について、大変興味深いお話を伺うことができました。フットサル大会には13チームの出場があり、熱戦が繰り広げられました。27人のOBの参加も得られ、嬉しい限りでした。どちらも好評を得ることができましたので、今後、機会を作って定期的に開催できれば、

同窓会会長
(塩沢商工高等学校教諭)

磯部 広信



と考えています。新たに同窓会員となる皆さんも、積極的にご参加いただけるよう、お願いいたします。

ところで、2006年をあらわす漢字には、『命』が選ばれました。皆さんも共感されたことでしょうか。たくさんの悲しい事件が報道され、あらためて『命』の大切さについて気づかされたこの一年でした。また、皆さんの在学中には水害、地震、豪雪、と複数の天災がありました。研究の妨げにはなったでしょうが、反面、災害時の助け合い等を通して、人の心の暖かさに触れることができた、貴重な学生時代が過ごせたのではないのでしょうか。

皆さんは、本学に学んで、世界に誇れる技術を身につけただけでなく、VOSの精神を培ってこられました。困難にぶつかっても、皆さんには母校というしっかりした土台があります。それを忘れることなく、VOSの精神を以て、充実した人生を送られますよう心よりお祈り申し上げます。

退職にあたって
振り返ってみれば

突然の電話で、長岡技術科学大学の川上學長（初代）が来学されており面談するとの呼び出しを受けたのは、昭和55年の冬、東京工業大学理学部の助手として、ぼろぼろの作業衣を着ての実験の最中で、一瞬、背広に着替えるべきかと迷い、予定外の呼び出しであり実験中なのだからそのまま出掛け、理学は『離学』で、工学は『空学』となっている、これは大変問題であるとの講義を拝聴することとなった。学長は、採用にあたって、候補の教員と面接し合否を決め、背広を着て机にしがみついている助手は誠にけしからんと持論であると後で知り、振り返ってみれば作業衣のまま行こうと決めた瞬間に、26年間に及ぶ研究教育場所が決まったと言えます。

昭和56年7月に分析計測センターに助教として赴任しましたが、立派な新構想大学を創ろうと教員・職員共に高い心意気で満ちており、建設途上の大学は良いなと感じました。学内も自由な雰囲気、センター所属のため機械、電気、化学系から順次学生配属を受け、後に専門領域を広げる上で大変役立ちました。赴任当時のセンターには、走査型電顕やX線回折装置などの汎用機器はありましたが、自分で使える実験部屋は狭い1部屋のみで、何とかしなくてはと、当時の最先端の表面分析装置の整備やその後の2回に亘る建て増しで張りきったのが懐かしく思い出されます。ただ残念だったのは、ナノ技術センターへの発展的改組の何回もの要求が学内で順位が上がらず最後には没になり、その数年後にナノテックブームとなったことでした。

研究面で忘れられないのは、赴任翌年度に採択された科研費基盤研究Bで、これは研究の立ち上げで大いに役立ちました。以来、通して基盤や特定研究など科研費には大変お世話になり、研究費工面であまり苦労しなくてよかったのは幸いでした。化学反応を進行させる金属や酸化物触媒に制御機能を持たせるという研究テーマで、圧電効果により格子歪みを起す弾性表面波や共鳴振動を応用する研究を始め、後にCambridge大学のKing教授との共同研究に発展し、学生が来たり何度か出かけたりに進めることができました。これも本学院生の頑張りや優れた技能が有ったか

らと思っています。また、エネルギー変換材料では、水の分解反応に対する多くの新規な光触媒を見出し、この分野でひとつの流れを創ることができました。これらの研究を通してこの時代の何人かの優れた頭脳を持ち主と出会えたことや予想外の、たまには予想通りの、インパクトのある結果を得て新しい概念を打ち出せたこと、また、その実験を行い輝いた若い人の顔を見ることができたことは大変うれしいことでした。

朝、研究室に来ると背広のままではなぜか落ち着かず普段着（作業衣？）に着替えると、「さて、やるか」と気合いが入る習性は、助手以来最後まで抜けなままとりました。また、昼休みに、諸先生とテニスをするのがいつしか日課となり、少々の雨や寒風酷暑もものかわと出てくる人は「真の友」、ぼかぼか陽気にだけ来る人は、「偽の友」とか呼んでいましたが、皆テニス仲間楽しく過ごさせていただきました（系長になって良かったのは、昼休みの系の会議は止めることができたことでした）。

個人の実現したい研究は保障される大学の真の特徴の中で過ごせたこと、また所属した物質・材料（旧化学）系では、突飛な考えでも議論に載り、物事を良くしたいと調和を持って進む気風の中で過ごせたことは大変有り難いことでした。これまで、多くの方に手助け頂きましたことに心より御礼申し上げますとともに、本学がその特徴ある風土を基盤に、抜きん出た研究教育の場として一層発展することを祈っております。



研究室にて

副学長
井上 泰宣

退職にあたって

長岡での大学生生活35年

縁あって、横浜から当時長岡にあった新潟大学工学部に来たのが1972年秋でした。高等学校を長岡の地で過ごしたので、長岡に来ても、全く違和感はありませんでした。十日町市に生まれ、昭和38年豪雪（1963年）当時、家族は見附市に住んでおりましたので、雪の深さを感じる目線が、他の人と違っていたようです。今でも、言葉に出してしまうのですが、30cm位の雪は、思わず『今年は雪が全然ないですね』と言ってしまいます。道に雪がないと、雪がないと表現するのです。

1980年4月から長岡技術科学大学に移って、長岡技術科学大学の生活が始まりました。1期生が大学院に進学した年です。電気系に属し、津端先生、反町先生と研究グループを作りましたが、共通のテーマの一つが、温度制御型面状発熱体でした（津端先生が開発したグラフトカーボン面状発熱体の次世代の発熱体）。導電体粒子と高分子の組み合わせ（高分子複合導電体）からなる発熱体は、温度が上がると抵抗値が急上昇するいわゆるPTC特性を示し、うまく使うと、温度制御が可能な発熱体が可能です。しかし、油断すると火災事故を起こす危険性があり、それを乗り越えることが難しいことでした。均一な大面積を作ることで、津端先生時代に解決したのですが、温度制御型はさらに一層難しい課題でした。

一方、1980年頃から白川先生のポリアセチ

レンが登場し、導電性の共通点で白川先生からポリアセチレンを頂き、比較して高分子複合導電体の導電機構に取り組みました。PTC特性の機構とあわせて、その基本特性を調べて見ました。すると、大きな電流が流れているのですが、電子がホッピングして移動する距離はわずか数Åでした。大きな電流となるのは、電子の数が 10^{19} 個にも達することで理屈があつております。これは、私にとって驚きでした。表面上大きな現象も、それを構成する一つ一つは小さな変化です。それ以来、色々の現象にこのような考え方を適用するようになりました。すると、社会現象でも、結構うまく説明がつくことが多いようです。ところが発熱体ですが、なかなかうまく行きませんでした。

2000年が近づく頃、電力会社がバックアップして、PTCを利用した発熱体の安全規格を作る話が急浮上して、私の所に廻って来ました。そこで、長岡高専の反町先生、新潟大学の板垣先生に協力を仰ぎ、規格の仕事に着手しました。2005年床暖房製品としての規格が完成、2006年より製品の安全認定審査を開始しました。生物系に移ると同時に始めた導電性高分子を利用した酵素センサーは、私の手を離れて進化を遂げています。多くの方の協力で、研究もまとまりがついたので思い残すことはありません。本当に有り難うございました。



在職時最後のプロジェクト実験現場にて
(2007年1月16日)

生物系教授
宮内 信之助

退職にあたって

自分の限界に挑戦したくなつた！

鹿児島で生まれ、ラサール高校卒業後1年目は法学部に2年目は医学部の受験に失敗、3年目に大阪大学工学部に入学、東北大学助手、同助教授、米国バージニア工科大学客員教授、防衛大学校物理教室教授を経て、平成元年に大阪大学教授、平成17年3月に定年退職、同4月から本学で働き始め、この3月で定年退職になります。最後の時を長岡で刻みたいと決意した主な理由は次の通りです。

本学は、①「科学技術」ではなく「技術科学」大学で、技術の積み重ねが新しい科学を生むとの理念を持つ希有の大学で、②20年以上に亘り開発した多様なナノテク材料技術を材料科学まで高めたいとの夢が叶う大学で、また③セラミックス分野は日本一（世界一かも！）である。長岡は、④大好きな上杉謙信が「景虎」時代を過ごした栃尾に近く、⑤心優しい人のみが住み、米の産地で、日本酒の宝庫で、心豊かにノンビリ過ごせる町である。

本学に赴任し、活力ある教職員の皆様、心優しい学生諸君、そして極限センターの仲間と接している間に、長岡への動機を上で紹介した狭い範囲に止め置くのが勿体なくなり、自分の限界に挑戦したくなりました。

その理由を詳しく述べるだけの枚数がありません。ごく簡単に紹介します。長岡の素晴らしい環境で疲労し傷ついていた心が癒された。学会の責任ある役職を平成21年に務め、平成22年に大きな国際会議の開催責任者になるべく予定されてしまった。長岡は世界一の技術を持ち活躍している中小企業を輩出している。最も重要な理由は、地震災害への恐怖心や豪雪と葛藤している間に、長岡の欠点が長所に融合し、「未来社会への入口」は長岡に有るとの閃きでした。

学部生の講義中に脇道に逸れる事が良くありました。今後の研究者や技術者に求められ

る最も大切な心は何だろう、良くInvention（発明・発見）とInnovation（技術革新）への心と言われていますが、私はもう1つIntuition（閃き、直感、洞察、目利き）を加え2*i*（愛）ではなく3*i*（愛）の心と言いたい。最も重要な愛は“閃き”の愛です。成績とは関係なく、博学になると無くなり、何時も夢を持ち、失敗が創造力を育むと信じ、全ての人を好きになろうと努力する人に備わるもので、君達には十分な資格があります。



三つの愛(i)のコンセプト

学生から質問がきた。何故全ての人を好きになる必要があるのですか？私の答えは、嫌いな人を作ると言う事は長所を大切に協調・競争し、異なる価値観から多様な情報を得て、未来への閃きを得る機会を自ら捨て去る事になるからです。

私も質問した。私は70歳で死ぬ様にセットし、それに合わせて酒もタバコも楽しんでいる、でも死ぬまで5年もある、何をすれば良いと思いますか？学生の答えは、自分に限界は無いと信じ挑戦しなさいと言いつけてきたのに、自分から諦めるとは、先生も挑戦すべきです、先生なら出来ると思います。

今は、学生の温かい励ましを信じ、長岡に存在する筈の素晴らしい未来社会への入口を見つけるために、定年後も長岡と関係を持ちながら死ぬまで自分の限界に挑戦してみたいと思っています。



新聞記者、コピーライター、自動車関係者、農水産と道路行政関係者、材料研究者、極限センター職員と学生が参加し、平成18年11月に湯沢温泉で開催した第19回人材設計研究会(人と材料の同時設計を目指す研究会)の集合写真。

極限エネルギー密度工学研究センター教授
新原 皓一

退職にあたって

過去のことと思うこと願うこと

学務部長 星野 茂登一



長くてまた短い40年でした。色々なことがありました。新潟市、調布市、京都市、富山市での生活も経験し、大勢の人と出会って今日に至りました。

大学職員となって最初の仕事が直接学生に接することでした。その後、学生とは直接関係しない会計、情報、人事関係事務を経て図書館事務、そして最後の2年間は、学生関係の事務に戻して頂き、大学職員として非常に嬉しく思っています。特に最後の1年間は学長、副学長、そして若い先生方と学生募集に高専を回らせて頂きました。若い先生方が長岡技大の創設の趣旨や基本理念を深く理解され、各高専の学生がおかれている状況を踏まえながら本学の説明をしているのを見て、長岡技大の将来は、こ

の先生方が担ってくださるものと強く感じました。学長先生外の執行部の皆様には、こういう若い先生方を大事にして頂き、その意見をくみ取り今後の大学の充実・発展に生かして頂きたいと望んでおります。

学生諸君には、自然環境に恵まれ(若い人たちにはちょっと寂しい)整った教育・研究環境の中で伸び伸びと、それぞれの道に進んで頂きたいと願っております。

最後にご支援頂いた先生方、諸先輩、後輩の方々の健康とご活躍を期待して退職の挨拶とさせていただきます。

退職にあたって

時の流れ

施設管理課 課長補佐 下條 誠一



私が国立学校に就職したのが昭和41年5月でしたから今から41年程前になります。最初は長岡高専の電気工学科、昭和54年4月からは会計課施設係、昭和60年10月からは長岡技大施設課に移って今に至っています。この間、生まれ育った長岡の国立学校で過ごせたのは幸せだったと思っています。多くの学生に巡り会い、また多くの施設整備に携わることができました。ふたつの学校にそれぞれ20年も勤めていますと愛校心も人一倍のものがあります。

40年以上もの間、何とか無事に勤められたのは多くの上司、先輩、同僚、後輩のご指導やご協力のおかげとつくづく感じているところです。お礼申し上げます。

40年も経ちますと仕事を行う上での環境もかなり変化しました。印刷するにも鉄筆とガリ板による謄写版印刷からワープロ、パソコンでの作成になり、コピーも青焼きから感熱紙を使ったものになり、今は普通紙に、それもカラーが当たり前になりました。計算する場合も私が高専に奉職した当時は実験室ではまだ計算尺を使っていましたが、電卓が安価になり、小型化されてからは計算尺は世紀の遺物となりました。複雑で

大量の計算を行うためにはコンピューターを使用しなければなりません。昭和60年代までは紙テープやパンチカードを使った計算機センター設置の大掛かりなものだったのが、今はそれ以上の性能のパソコンを個人が所有する時代になりました。図面を描くにもT定規からドラフターになり、今はCADになりました。また、出張するにも東京へ行く場合は特急で4時間かかり、必ず1泊だったのが昭和57年に上越新幹線が開業してからは日帰りが当たり前となりました。

いろいろなものが便利になりましたがかえって忙しくなったような気がします。

今は土曜日は休日ですが、以前は半日勤務で午後はフリーでしたからその解放感が懐かしく思い出されます。

まだまだいろんなものが変わってきましたが、これからの世の中はもっと変化するかも知れません。長岡技術科学大学が時代の変化を先取りして、いつまでも輝き続けますことを祈念するとともに、これからは学外者として応援していきたいと思っております。長い間大変お世話になりました。

エネルギーセンターにて

● 同窓会支部活動へのご協力 (お願い)

卒業・修了生の皆様、おめでとうございます。長岡技術科学大学同窓会は、卒業・修了生を正会員、在学生を準会員、論文博士取得者及び教職員(退職者も含む)を特別会員として、会員相互の連絡、親睦及び啓発を図り、併せて長岡技術科学大学の発展充実に寄与することを目的に活動をしており、全会員数は1万人以上におよびます。

同窓会では、会員相互の連絡、親睦及び啓発のため、支部同窓会(職域支部)の設置を積極的に進めています。国立大学法人化、少子化問題、大学全入時代の到来などにより長岡技術科学大学も他大学との厳しい競争を余儀なくされていますが、長岡技術科学大学が今後50年、100年と存続していくためには同窓生の協力が大変重要と考えられます。現在、いくつかの地域、職域で支部が設置されています。今後、さらに同窓会ネットワークを広げるため、同窓会支部活動へのご協力を呼びかけております。

同窓会支部設置に関する問い合わせは、長岡技術科学大学同窓会(〒940-2188 長岡技術科学大学 同窓会, TEL/FAX 0258-46-5505, e-mail:dosokai@vos.nagaokaut.ac.jp)までお願いいたします。

支部の概要

同窓会支部設置に関する問い合わせは、長岡技術科学大学 同窓会まで。

- ・職域支部(職場ごとの支部)や地区別支部(各県や各市での支部)を設置する。
- ・各職域や地域から支部設置要望を受けて同窓会がこれを承認する。
- ・支部活動の会計は各支部の会費で賄う(活動内容によっては同窓会本部からの支援も可能)。
- ・支部活動の主な内容:同窓生の親睦、同窓会や母校の情報提供、社会活動、母校への協力(母校のPR[入学者の確保], 研究仲介[共同研究など])など。
- ・同窓会報や同窓会ホームページ(<http://www.info-niigata.or.jp/~nut-doso/>)で支部活動を紹介する。

● 長岡まつり大花火大会で「30周年記念花火」を打ち上げました

長岡技術科学大学は開学30周年を迎えました。同窓会では同窓会会員の協力を得て、長岡地域の皆様への感謝をこめて、また、長岡技術科学大学と同窓会の発展を祈願して、平成18年8月2日の長岡まつり大花火大会において記念のベスピアス超大型スターマインを打ち上げました。「新しい技術開発」をイメージして、銀色の花火を基本に、UFO花火、連鎖して炸裂する花火、新種の花火など数々の花火が夜空に打ち上げられました。

最後のクライマックスは、尺玉の連発の後、信濃川まで細い光が束になって垂れ下がる柳花火で締められ、会場から大きな拍手が贈られました。

【放送メッセージ】

「大型37番。長岡技術科学大学が地元長岡に開学して以来、今年で30年になります。これまで、日本はもとより世界に技術科学における優れた人材を輩出し、さらに産業界と行政との連携による共同研究や技術開発で社会に貢献してまいりました。ここ長岡で学生時代にお世話になった皆様に感謝の気持ちを込めてお贈りいたします。長岡技術科学大学開学30周年記念花火。新時代のテクノロジーを創造する熱き技術者からの夢と希望を花火に託して、ベスピアス超大型スターマイン、ニューテクノパワー、打ち上げ開始でございます!」



* 打ち上げ *

「ベスピアス超大型スターマイン。長岡技術科学大学同窓会がお贈りいたしました。」

ベスピアス超大型スターマイン